

令和 8 年度第 1 回 堺市がん対策推進委員会 会議録

日 時 令和 8 年 5 月 7 日（木） 14：00～16：00

場 所 堺市役所本館 6 階 会議室

出席者 平松会長、辻畑副会長、宮本副会長、安委員、池崎委員、浦嶋委員、浦田委員、
北村委員、中川委員、西村委員、藤田委員、松吉委員、向井委員、山口委員、
山本委員（副会長以下 50 音順）

1 挨拶（健康福祉局保健医療担当局長）

2 委員紹介

3 案件 1 堺市のがん対策推進に係る課題について

- ・会長より資料に基づき課題の全体説明後、検討を実施

（平松会長）

- ・2018 年に、堺市において「がん検診自己負担無償化」が開始され、5 がんの検診受診率は、12.8%（2017）より 15.5%（2019）まで上昇したが、その後、コロナ禍の影響で 14.0%（2020）に低下して以降、2023 年の 5 類感染症への移行後も 14%台と低迷し、検診率の向上を認めない。精密検査受診率も微増にとどまる。
- ・厚労省の「第 4 期がん対策推進基本計画」に基づき、堺市が行政としてがん対策に貢献できる分野を整理し、各分野における課題を挙げ、これまでの対策に加え、新たな取り組みを検討する必要がある。
- ・「堺市がん対策推進委員会規則」により設置された市長の諮問機関としての堺市がん対策推進委員会であり、本規則の〇条〇項の通り、本委員会で決議された事項のうち、とくに市議会で検討いただく必要がある方針については、委員長より市長に報告の予定である。

がん予防について

■がん検診受診率の向上

検討 1：本市におけるがん検診対象者の人数を把握

（平松会長）

- ・がん検診受診率の把握には、対象者の人数の把握が必要であるが市として可能か。

（事務局）

- ・企業検診は、福利厚生で実施されており、導入されている企業数や検診種別、受診者数の把握が困難である。
- ・確認する方法の 1 つとして、3 年に 1 回実施される国民生活基礎調査の中で、がん検診の受診の有無を問う質問がある。アンケートベースではあるが、企業検診も含めた回答であり、回答された市民の 40～45%の方が 5 がんの検診を受診していると回答している。

- ・自治体の検診と合わせて、どのくらいの方が受けておられるかの把握は、国としても課題となっており、DX化の中で、国の検討会において議論を進めている。令和11年度以降に実現に向けて進めると国の方針が出されている。本市もその動向を見ながら進めていきたい。

(平松会長)

- ・国は国で動かれるが、堺市でがん検診を受けられる方がどのくらいおられるのかは、堺市がアンケート調査を行わない限り把握は難しい。アンケートを実施できるか。

(事務局)

- ・アンケート実施にあたって、全員を対象とするアンケートは現実的ではない。国民生活基礎調査も抽出調査となっている。
- ・国民生活基礎調査の中で、3年ごとにはなるが、アンケートベースで堺市のがん検診の受診状況も確認が取れている。

(平松会長)

- ・大まかな受診率を議論しているが、分母が分からない議論は意味がない。3年を待たずに、ぜひ今年度中に実施していただきたい。

検討2：がん種別のがん検診者数（受診率）、男女別ならびに年齢別（10歳ごと）の受診率の検討、がん種による受診率の差

(平松会長)

- ・がん種別の受診率はすでに示していただいている。男女別、年齢別についてもできると思うので、併せて願います。

検討3：受診率の高い政令指定都市の取組調査

(平松会長)

- ・前回、西村委員からも発言いただいていたが、取組調査は実施いただけたか。

(事務局)

- ・受診率の高いさいたま市と浜松市の調査をした。
- ・さいたま市の特徴的な取組としては、個別勧奨通知に力を入れている。がん検診・歯科検診等の案内はがきを、20歳以上の女性及び40歳以上の男性に対して送付している。一方で、受診率については、本市と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響により低下した後、一定の回復は見られるものの、おおむね横ばいであり、コロナ禍以前の水準には戻っていない状況であると聞いている。
- ・浜松市においては、がん検診キャンペーンとして、がん検診を1種類以上受診した方等を対象に、抽選で健康グッズ等を進呈する取組を実施しているとのことである。令和7年度のキャンペーンでは、およそ1,400件の応募があり、そのうち110名が当選したとのこと。

とである。ただし、応募者の多くは既に受診習慣のある層であるため、今後は検診に無関心な層への周知・啓発のあり方について検討が必要であると伺っている。

(平松会長)

- 今の中では、検診キャンペーンで健康グッズ等というのは魅力的な取組。堺市では、今まで多くの取組をされているが、それでも受診率が上がらない状況にあるので、2市以外にも色々なところから情報を得て、できそうなものから少しずつ取り組んでいただきたい。そのために、引き続き調査をお願いしたい。

(辻畑委員)

- 先ほどのさいたま市の取組で紹介された個別はがきの案内は堺市でも実施されているとの認識であるが、いかがか。

(事務局)

- 堺市も実施しているが、年齢制限を設けている。さいたま市は制限を設けず送っている。

(辻畑委員)

- アンケート調査もされているが、その中で無償化を続けるか否かの質問に関しては、無償化を継続してほしい、という結果になると考えられるが、一方で無償化ありきではなく、無償化に代わる何か受診率を上げる施策を考えられてもよいのではないか。
- 受診率に関しては、医療機関で人間ドックを受診している人は、堺市の検診を受けることはない。何らかの方法で、堺市民の中で実際にどれだけの人が検診を受けているのかを行政として調べていただきたい。

(平松会長)

- 前回ご意見いただいた西村委員にも、ご意見をお願いしたい。

(西村委員)

- 2点教えてもらいたい。広報部と打合せをして、堺市ホームページのトップページにがん検診の案内を掲載することとなり、検索エンジンも工夫いただいたが、掲載期間が期間限定と聞いている。継続性が大事であるので、ホームページの中にある「便利情報」の5つのアイコンの中に1つ空きスペースがあるので、ここに常時入れてもらうよう依頼している。
- 2つめとして、他市事例として、さいたま市、浜松市の報告をしていただいたが、それを受けて、市としてどうしていくのかを聞かせてもらいたい。

(事務局)

- 広報については、西村委員の働きかけもありトップページに載せることができた。トップページへの掲載は期間限定にはなるが、今後もタイミングを見てアップしていく予定で

ある。

- ・「便利情報」については、スマートフォン版では、5 つあるアイコンが、2 つずつ縦に並べて配置されているので、3 行めに 1 つ枠が空いているように見えるが、ホームページはパソコン版がベースになっており、パソコン版では 5 つのアイコンが横一列に整列していて、空き枠がない状態である。そのため、この枠を変更することは難しいと聞いている。

(西村委員)

- ・枠を変更することはできるが、費用がかかると聞いている。物理的にできないことではないので、費用を確保して来年でもいいので、進めてもらいたい。
- ・検索エンジンの話をすると、今はパソコンではなく、ほとんどの人が携帯電話の検索を利用している。この点も踏まえて検討してほしい。
- ・先ほどの他市の事例についても、いいアイデアがあれば、それを市の中で前向きに検討してもらいたい。

検討 4：受診率向上のための施策：「自己負担無償化」のみでの限界、特典付与の検討

(平松会長)

- ・無償化以外に何かキャンペーンや、方策を作ることについてご意見をいただきたい。

(西村委員)

- ・新しい方策も大事であるが、前回の会議で紹介された多くの受診勧奨資材について、周知できていないように感じる。学校や自治会の掲示板等、周知の仕方を施策のひとつとして検討いただきたい。

(平松会長)

- ・様々な試みをしてもらっているが、「ここまでやるか」と感じるほど踏み込んだ内容を検討していただきたい。
- ・3 つの案のうちどれがよいか挙手していただきたい。

▶現状の自己負担金無償化のみを続けるのがよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(挙手：5 名)

▶自己負担金無償化に代わる何かキャンペーンを実施するのがよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(挙手：6 名)

▶無償で受診する、またはキャンペーンに応募する、という選択ができる方式がよいと考える方は挙手をお願いしたい。先ほど手を挙げてもらった方でも、挙手可能とする。

(挙手：8 名)

- ・3 つに分けたが、どれか選べるのであれば、市民の皆さんが選択できるようにするのが重要。無償化を残しながら新たなキャンペーンを取り入れて宣伝をすることが必要。ご希望の方は自己負担を無償にすることもできるという打ち出し方が最も魅力的で効果があるのではないかな。

検討 5：「堺市けんしん総合サイト」の有効活用

検討 6：平日夜、土曜と日曜祝日を分けた検索機能の追加

(平松会長)

- ・堺市けんしん総合サイトの検索条件に平日夜、日曜・祝日の項目を用意していただきたい。
- ・堺市けんしん総合サイトは、特定健診とがん検診の 2 つから構成されており、がん検診を選んで使用する形になっているが、がん検診は定期的に受診しないと数年で取り返しのつかないところまで進行してしまう可能性のあるもので、特定健診は受診結果を受けて 10 年、20 年後のために生活習慣をどう変えるべきか、というものであるから、本質的に全然違うため、個人的には分けるべきと考える。

検討 7：イベント会場での受付の推進、複数の検診の同時実施

(平松会長)

- ・イベント会場での受付の推進、複数の検診の同時実施については、堺市としての意見はいかがか。

(事務局)

- ・一部イベントで実施しているがん検診があるが、受診資格の確認や、受診可能枠に上限があること等の課題があることから、会場で直接申込みを受け付けることは慎重な検討が必要と考える。様々な機会を受診ができるよう、堺市けんしん総合サイトで案内を行うなど市民が自宅等から申込みを行えるよう工夫している。

(平松会長)

- ・今後の話として、前向きに、こういうイベントならがん検診ができるというのを検討していただきたい。
- ・複数のがん検診の同時実施について実施可能なのか。中川委員から、複数の検診を同時に受けられたら、という意見をいただいていた。

(中川委員)

- ・かかりつけ医で、すべてのがん検診を受診できれば問題ないが、そうでない方は受診が漏れてしまう。大きな病院であれば、すべての検診を一度に受けることができると思うので、そういった方に向けて節目の年、例えば 40 歳、50 歳のときにすべての検診を受けられるようにできればいいのではないか。一度すべての検診を受けてみることであれば、検診のハードルが下がり定期受診にも繋がるのではないか。

(平松会長)

- ・各検診を個別に受けに行くのは大変である。節目の年にまとめて受診し、気になる項目は個別に受診していく、というようなきっかけにもなる。一度受けてもらうという重要な施策になるのではないか。

(山本委員)

- ・クリニックをしている立場から申し上げますと、堺市が実施している 5 大がんでは、例えば、胃がん検診は、胃カメラもしくは X 線がある医療機関で、乳がん検診であればマンモグラフィのある医療機関で受診する必要がある。私のクリニックであれば、胃がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検査、肺がん検診は一度に受けていただくことはできるが、婦人科の乳がん検診、子宮頸がん検診は難しい。
- ・人間ドックを実施している労災病院、堺市立総合医療センター等の医療機関で受診し、その中に堺市の検診を入れ、一部を無償化するということが可能かどうかは存じ上げないが、そうすることで受診者が一度に検診を受けられるのであれば良いことだと考える。
- ・私のクリニックでも、複数の検診を受ける人が大半である。節目の年齢だけ受けてもよいが、各検診には、それぞれどのタイミングで受けるのが最もふさわしいかというエビデンスがあるので、一度に検診を受けられることも理想であるが、検診ごとにそういったことが決まっていることもご理解いただきたい。

(平松会長)

- ・山本委員のおっしゃる通り。

(池崎委員)

- ・イベント会場での受付の推進、複数の検診の同時受診に関して、色々な地域のイベントにがん検診車が来て実施していた。東区の文化会館を地域で運営していたときに感じたのは、地域の安心安全は、お医者さんとの連携が大きな意味を持っているということ。専門が違っていても相談したいという方が多い。がん検診のときに相談コーナーを持っていたと、がん検診の受診につながると考える。
- ・最初の検討 1 の課題で、がん検診を受ける人の分母が分からないという話があったが、他の政令市と比較をする時に分母が違っていたら意味がないのではないかと。実感として先生方は受診率が低いとお考えか。

(平松会長)

- ・受診率は低いと考える。正確な比較はできないが、さいたま市や浜松市は無償化をしていないのに、かなり高かったと認識している。そこで調査という意見につながった。
- ・病院で節目の年齢であれば、検診を受けさせてもらうことは可能か。

(安委員)

- ・項目的には可能かと思うが、他の診療と合わせてどうするかだけなので、病院と検討したい。

(宮本委員)

- ・項目的には可能であるが、無償化できるものとできないものがあると思うので、まとめて

できるかは今すぐには分からないので要検討。

(中川委員)

- ・堺市は特定健診も実施しているので、婦人科系のがんは難しいと思うが、節目の年に血液検査等、できるだけたくさんの検査を受けることができるのが受診者にとってメリットになると考える。

(平松会長)

- ・堺市けんしん総合サイトの中に、複数のがん検診を受けられる施設を表で作って掲載してもらえれば参考になる。

■がん精密検査受診率の向上

検討8：保健センターによる未受診者への個別勧奨（5がん対象）の推進

(平松会長)

- ・始まって2年の取組なので、今後も続けてもらいたい。

アンケートからの主な検討課題

○体験談の動画作成

(浦嶋委員)

- ・最初の動機付けが大事。病院にかかるのは体調が悪いという明らかな動機付けがある。がん検診は、がんになったら怖いという動機付けが決定的だと考える。疑似体験という形でのインパクトが重要で、よりリアリティのあるものが説得力を高める。作成が難しいこと重々承知しているが、本人出演の動画は代えがたい効果があると考え。芸能人や有名人であればなおのことであるが、一般の方でも治療を受けてよくなられた方、検診を受診しておけばよかったという方を対比しながら見せるのがよいのではないかな。

(平松会長)

- ・体験談を動画にしてはどうか、という意見を委員の方から複数いただいている。体験談は本人に出ていただくのが一番だが、良くなられた方の話であればよいが、そうでない場合は他の方に演じていただくことになるかもしれない。そういったことも含めて、市として、作成してもらうことは可能か。

(事務局)

- ・体験談の活用については、受診につながる可能性がある一方で、先ほどの話にあったようにがんに向き合いながら治療を続けられている方もおられるので、その方々の心境への影響も踏まえる必要があり、慎重な配慮が求められる。その点も踏まえて考えていきたい。

(平松会長)

- ・今、加療中の方にとっては耳をふさぎたくなるようなことかもしれないが、そのところ

を考えるために、インパクトの強いがん検診を受けましょうというメッセージを発信することが必要と考えるがいかがか。

(事務局)

- ・おっしゃられているように、例えば芸能人の方ががんにかかれた時に、それを受けて検査に行かれる方も多いと思うので、効果はあると考える。早く治った方に関しては、当事者も含めて体験談の動画を作りやすいが、早めに検診を受診しておけばよかったという方の話は配慮が必要で、当事者の方の意見を踏まえながらどのような形でできるのかは、検討が非常に求められるところだと考える。堺市が作るものであるので、色々なところに配慮しながら作成することになる。そこを踏まえて何かできるものがないか検討したい。

(山本委員)

- ・体験談の動画は非常にインパクトがあるが、作成するのは非常に難しい。がん検診を受けないと大変なことになるという内容の動画は、それも受診の奨励にはなると考えるが、実際に診療をしている中で、そもそも胃がん検診がどういう検診なのか、胃カメラが何か、からご存知でない方もいる。それぞれの検診について、どんな検査で、検査の結果がんが発見された時にはどんな治療になるのか、という紹介動画であれば、動画作成のハードルは下がるのではないかと。
- ・労災病院や堺市立総合医療センターでされている、がんフォーラムのような動画を作成されてはいかがか。
- ・医師会も動画作成には協力するので、ファーストステップとしてはそのような内容でいかがか。

(平松会長)

- ・検診の説明動画は非常に大事で、それによって受診のハードルが下がってくると考える。ぜひ検討してもらいたい。

(宮本委員)

- ・山本委員の話で、検査方法から一連の治療のところまで紹介するとおっしゃっていただいていたが、これは非常に大事である。あらかじめ検査で要精密検査となった場合のことをきちんと説明しておくことが、要精密検査の未受診者を減らすことになる。

(平松会長)

- ・ぜひ動画作成を進めてもらいたい。また、配慮をしながら体験動画の作成も考えてもらいたい。免許更新時に見る動画のように、インパクトのあるものも大事。

〇かかりつけ医からの受診勧奨

(平松会長)

- ・かかりつけ医の先生からの受診勧奨は非常に重要なことであり、実際にしていただい

と思うが、ぜひ医師会でも進めていただきたい。

○職域（企業）検診との統合

（平松会長）

- ・職域検診との統合については、いかがか。

（事務局）

- ・職域検診との統合については、先ほども申したが、まず企業で実施する検診を優先いただき、職域検診で受ける機会がない方は、堺市の検診受診を勧めている。
- ・統合という話になると、市のレベルではなかなか難しい。今自治体で実施しているのは対策型検診であるが、企業の検診が国の求める対策型検診であるかというのも把握ができていない。統合するということになれば、そのあたりも含めて調整していくことになるので、引き続き国の動向を見ていきたい。

（平松会長）

- ・国は国、堺市は堺市として積極的に取り組んでいただきたい。
- ・山口委員からこのことについてコメントをいただいているので、ご意見をお願いしたい。

（山口委員）

- ・企業で受けられる方以外に、受診勧奨をしてもらいたい。
- ・検診を受けましょうというだけでは受診につながらないので、先ほど話にあった 50 歳、60 歳のような節目のときに検診をというように、何かきっかけを作るだけで次のステップに上がり、次につながるので、きっかけを作ることが大事。

（平松会長）

- ・企業と市が別々にあるのではなく、連携しながら、ということが必要。色々なところから上手くいく方法を模索していただくような形に当面なると思うがぜひともお願いしたい。

○出張検診（検診車による集団検診）

（平松会長）

- ・現在、検診車による出張検診を実施しているのか。

（事務局）

- ・イベント実施時に検診車を派遣して検診を受けていただく機会を設けている。

（平松会長）

- ・実施方法は、予約制なのか。また、年間の実施回数としてはどれぐらいか。

（事務局）

- ・検診の上限人数があるため事前予約としている。
- ・年間、数件実施している。

(平松会長)

- ・例えば、学校の校庭に検診車を派遣して、大々的に検診実施日を宣伝すれば地域の方々は受診に来られるのではないか。向井委員がうなずいていらっしゃるので、意見をお伺いしたい。

(向井委員)

- ・予約をして、その日のスケジュールを確保して受診することは働く世代にとっては難しいのではないか。空いている時間に出かけた先で実施していたら受けてみたいと思い、受診につながるのではないか。

(池崎委員)

- ・以前は、学校で検診を実施してもらっていた。その際には自治会からすべての住民に案内をして、手伝いに行ったりしていた。当時はかなりの方が受診していたと思う。今は実施されていない認識である。いかがか。

(事務局)

- ・学校等で実施していた集団検診は、暑い夏場でないと体育館が借りられないという学校等の事情があり、熱中症対策の観点から集団検診の実施が難しくなった。今は、個別に各医療機関でご都合のよい時に検診を受けていただく個別検診に移行した。

(池崎委員)

- ・実際のところ、集団検診に行かれる方が少なくなってきたという実情があったのではないか。

(西村委員)

- ・財政危機宣言が発令されてから集団検診がなくなったのではないか。今の話が本当であれば、校庭開放委員で体育館を空けることはいくらでもできる。例えば、手を挙げたら今年度集団検診を実施いただけるのか。本来は経費カットのために市長がやむなくカットしたと認識している。

(池崎委員)

- ・それは違うと思う。集団検診がなくなったのは、もっと以前である。

(平松会長)

- ・堺市から説明いただきたい。

(事務局)

- ・要因はいろいろあるが、以前は学校や自治会館で集団検診を実施していたが、働く世代が増え、受診者数が減ったので、そこを含めて整理をしたという経緯がある。池崎委員からも説明いただいたが、検診車で検診受診者数がかなり減っているという状況から個別の医療機関での検診に整理をしたもの。

(西村委員)

- ・小学校で平日に 250 世帯が対象となる参観がある。人を集めるのであればリクエストすれば来てもらえるのか。

(事務局)

- ・イベントに出向いての検診では、土日の実施ということもあり多くの方に予約いただく。実施方法については、バランスを考えて、今いただいた検診車で出張して実施する方法などのご意見を踏まえ、出張検診にしても個別検診にしても周知の方法等、方策は知恵を出して考えていかななくてはならない。

(池崎委員)

- ・人に呼び掛けるのは大変なこと。今の状況のなかで、それだけがん検診の色々な対策が充実してきたということ。以前は、学校に検診車が来たときに受診する人が多かったが、今はかかりつけ医や、堺市からの様々な案内により色々な検診を受ける機会が増えた。それが集団検診の受診者が減った大きな要因ではないか。集団検診を復活してくれるのであれば、地域としては協力するが、なかなか十分な対応ができるかという点と難しい。
- ・今は、お医者さんとの協力関係を構築することが最も必要なことであり、課題だと考える。

(平松会長)

- ・受診率が上がらない現状の中で、検診車による集団検診をイベント時に予約制で実施する、あるいは、かつてのように機会を設けて学校で実施するなど、視野を広げて検討いただきたい。大々的にする必要はないが、ポイントポイントで実施していただき、多くの方が来られるようであれば少し規模を広げて実施してもらいたい。

○オンラインによる検診予約システム

○医療DXの充実（検査予約、結果確認、オンライン読影など）

(平松会長)

- ・必要であるが、すぐには難しいので、検討していただきたい。

がんとの共生

検討9：本庁課による“がん相談窓口への導線”の整備と広報：保健所・保健センターを主導

(平松会長)

- ・基本的には保健所や保健センター、病院が窓口になるが、本庁課としては市民が迷わず躊躇せず相談できる導線の整備とその広報をしっかりとお願いしたい。

アンケートからの主な検討課題

- がん患者会
- オンライン相談（チャット方式の導入）
- 中小企業における治療両立支援のサポート
- アピアランスケア サポート事業

（平松会長）

- ・アンケートからの主な検討課題としては4つある。
- ・がん患者会は、病院でのがん患者会、堺市の「よりそいの会」がある。堺市としてどのような形でがん患者、そのご家族をサポートしていくか。その中で情報共有や連携をどのようにしていくか、というところがある。中川委員に意見を伺いたい。

（中川委員）

- ・がん患者会の立場から話をさせていただくと、今はがんが分かってもすぐに死ではなく、がんと共に生きていく社会になっている。
- ・私ががん患者の方とよりそいの会でお付き合いする中で感じるのは、がんと言われた本人はショックが大きいですが、がんと共に生きていくためには患者だけではダメで、患者のすぐそばにいる家族が一番大切である。実体験として、患者の前で言えないことが家族としてたくさんあった。本人と一緒に家族が医師の話を聞くことはもちろん大事であるが、患者を介さない場面で家族ががんに向き合うことが非常に大事なことです。当会は、家族も一緒に入ることができる。家族が先生や看護師と相談しやすいことが、患者と共に生きていくために、とても大事なことです。
- ・その辺をどのようにしたらよいのかは分からないが、家族が患者抜きで治療を受けている病院の相談支援センターに行ったり、近くのクリニック等に相談に行くことができれば、もっとよりよい環境になるのではないかと。

（平松会長）

- ・がんとともに生きるというのは、患者さんにとっても、ご家族にとっても大変なこと。病院の患者会であれば医師も入っているところが多いので活用していただいて、堺市にはそこへのサポートをしていただきたい。
- ・また、何かあったときには、患者さんやそのご家族が保健所や保健センターに相談に行きやすいような環境を作っていただきたい。
- ・北村委員からもご意見をいただきたい。

（北村委員）

- ・患者会に来られる方は若い方も多いので、若い方の受診率を上げることが一番よい。

- ・私自身、妹を乳がんで亡くしている。残された家族、子どもたちが一番大変なので、若いうちから検診を受けることが何より大事だと考えている。
- ・がん宣告をされたその日から緩和ケアが必要と思っている。しっかりした気持ちで前向きに治療をすれば違ってくるので、患者のフォローを第一に考えてほしい。
- ・当時を振り返って一番うれしかったこと、心強かったことは、がん支援センターの看護師さんが、「いつでもお電話ください。何か力になれることがありますと思います。」という言葉をかけてもらえたことだった。その人に寄り添ってあげることが何より大事なのではないか。医療者と私たちはまた違うので、まずはその門をたたいてもらいたいということを一番に思っている。

(平松会長)

- ・門を叩くところの敷居を低くする役割を保健所、保健センターに担ってもらいたい。

(池崎委員)

- ・行政に何でも求める時代は過ぎたのではないか。その中で、住民と共同してどれだけ前に進んでいけるかだと考える。
- ・社会福祉協議会でも、地域と共同した様々な会合をしている。保健センターや、包括支援センター、医師も参加した会合をしている。
- ・私の校区では、がんが見つかった方がおり、その会で検診の大切さを伝えてくれている。
- ・少し斜めからの発言にはなるが、私が学生のときは、医療費は 20 兆円だった。今は 40 兆円を超えて、どこまで膨らむのか分からない時代になっている。そんな中でせっかくこのような会があるので、地域としてこんな協力をしてはどうか、というように自身の立場からできることを提案していくべきではないか。
- ・それぞれの立つ位置によって、要望はたくさんあるが、ともに歩んでいく姿勢を崩してしまふと進んでいけない。
- ・健康寿命の延伸は本当に大事なこと。一方で、医者に行くと時間がかかって大変というのが本音でもある。ただ、かかりつけ医の先生は信頼しているので、かかりつけ医の先生が検診を受けるように言ってくれるのが、一番効果があると思う。
- ・行政もしっかり考えて進めているので、お互いうまく尊重し合いながら高め合っていければいいのではないか。会長からも、こういうのはどうかという提案をいただければありがたい。

(平松会長)

- ・がんとの共生については、今後もこの委員会で取り上げていきたい。
- ・本日は貴重な意見を多数いただいたが、全体を通して、浦田委員に意見をいただきたい。

(浦田委員)

- ・検討 1 の質問について、以前の会議で全体の母数が分からないと検討が難しいという話はさせてもらった。

- ・今の受診率の母数には、会社で検診を受診している人も含まれているとのことなので、提案として、市町村国保の方を母数に受診率を出せば、正確とは言えないが、ある程度のサンプリングができるのではないかな。
- ・堺市として出すのであれば、堺市国保の加入者を対象者として算出すれば、およそのデータは出るのではないかな。

(山本委員)

- ・がん検診を受診されるときに、医療機関では受診者が国保か社保かの確認をしないので、医療機関での把握は難しい。

(事務局)

- ・がん検診の受診票の中には、国保や協会けんぽといった項目はない。ただ、国民健康保険は堺市が保険者であるので、堺市で該当者は把握している。そのため、浦田委員がおっしゃる堺市国保の方を母数にした受診率を出すことは可能。

(浦田委員)

- ・その方法での受診率が出せるのであれば、次の会議で報告していただきたい。ある程度の指標になると考える。

(平松会長)

- ・ぜひ次の会議で国民健康保険に加入の方を母数とした受診率を出していただきたい。

(浦田委員)

- ・DX に関しては、国主導のものであるので我々が手を入れられるものではないと考える。堺市としてできることは、現状のような取組が妥当である。

(平松会長)

- ・藤田委員からもご意見いただきたい。

(藤田委員)

- ・以前、検診の講話をしたときに、がん検診の受診率が非常に低いことを受けて年代別のアンケートを取ったことがある。その中で、検診を受けない理由を尋ねたところ、若い世代は時間がない、自分ががんになると思わないというものが多かったが、高齢者の方は、夫婦2人暮らしで、私のがんになったら夫の面倒をみる人がいなくなって困る、という回答が非常に多かった。年代別になぜ検診を受けないのか、という理由を把握することが大切である。がん検診でがんが見つかったら困る、という方に対してがん検診を受診したら景品が当たるキャンペーンは無意味だと考える。理由や年代に応じたアプローチが非常に有効になる。
- ・がん検診の無償化は非常に大切なこと。インフルエンザ、コロナのワクチンが無料のとき

は多くの方が受けていたが、有償になると極端に減ったことから明らか。無料はとても魅力的な取組と考える。

- ・現在、私は堺市医師会で広報の担当理事をしており、医師会長の命で市民対象の YouTube 動画を作成している。第 1 話は国民皆保険制度について、第 2 話は、がん検診をテーマに作成中である。がん検診について専門の先生にお話しいただく予定で、堺市に協力してもらえれば助かるので、話をさせていただきたい。

(平松会長)

- ・最後の動画作成については、堺市と堺市医師会がタイアップして進めていただければ。

(松吉委員)

- ・中小企業における治療両立支援のサポートについては、健康経営®を積極的に実施している企業に話をしてもらったことがある。社長自身ががんになり、健康経営®が大切だという話をしてもらい、それが非常に好評だった。堺でもピンポイントでそういった企業を見つけることは難しいかもしれないが、講演依頼があれば、企業側の理解不足への対応に少しはお役に立てるのではないかな。

(平松会長)

- ・企業経営の中で健康は非常に大切であり、企業の方々と一気に進めて行くのは難しいと思うが、モデルとなるような 1 つ、2 つの企業と一緒にやってみて、その中でどのようにすればいいのかが見つければ、それをいろいろな企業に勧めていただけるのではないかなと思う。

(平松会長)

- ・本日は様々な貴重なご意見いただいた。堺市としても意見を踏まえて検討いただき、今年度中にできることは取り組んでいただきたい。

以上

※「健康経営®」は、NPO 法人健康経営研究会の登録商標です。